



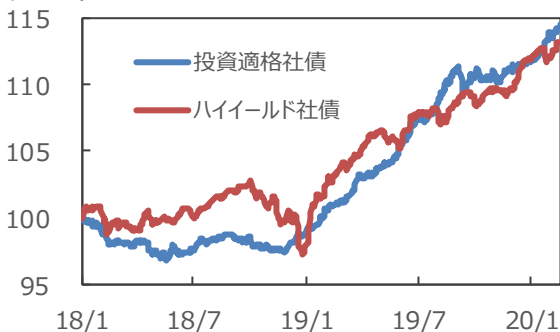
今日のトピック 米国社債市場の好調さはいつまで続く？

利回り追求型の資金流入は今後も続く見通し

ポイント1 社債市場は底堅い動き  
国債との利回り格差も縮小傾向

- 米国社債市場は、米中貿易協議の部分合意を受けたリスク志向の高まりや、金融緩和の長期化観測を背景に、底堅く推移しています。2月18日までの年初来騰落率を見ると、投資適格社債が+2.5%、ハイールド社債は+1.2%となっています。
- なお、社債スプレッド（社債と国債の利回り格差）は、米国の利上げと米中貿易摩擦の懸念が高まった19年1月をピークに、足元は縮小傾向にあります。

【米国社債のパフォーマンス】

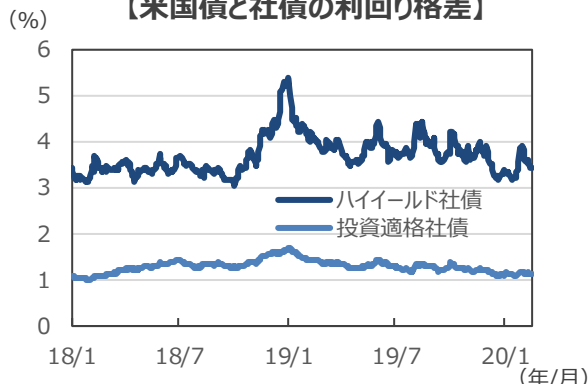


(注) データは2018年1月1日～2020年2月18日。  
2018年1月1日 = 100として指数化。指数はともに、  
Bloombergバークレイズ米国社債指数ベース。  
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセット  
マネジメント作成

ポイント2 相対的に高い利回りが魅力  
FRBによる金融緩和は長期化

- 社債スプレッドは、今年の1月末から2月初めにかけて、新型肺炎の拡大懸念からリスク回避の動きが高まり、一時的に拡大しました。その後は、徐々に落ち着いています。
- 世界的にインフレが落ち着いていることに加え、新型肺炎による景気への影響に配慮するため、米連邦準備制度理事会（FRB）が金融緩和姿勢を継続するとの見方が高まったことが背景です。

【米国債と社債の利回り格差】



(注1) データは2018年1月1日～2020年2月18日。  
(注2) 利回り格差は、社債利回りと国債利回りの差。  
Bloombergバークレイズ米国社債指数ベース。  
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセット  
マネジメント作成

今後の展開 底堅い推移が続く

- 米国経済は、米中部分合意やFRBによる金融緩和の継続、良好な雇用・所得環境を背景に緩やかな回復が期待されます。このことから、社債市場は底堅い推移が続くとみられます。投資適格社債、ハイールド社債ともに、低金利の下で利回りを追求する資金流入が続くと期待されます。
- 新型肺炎の影響には注意が必要ですが、米国は影響が比較的軽微であると考えられるほか、仮に企業業績に影響を及ぼす程度になった場合でも、FRBによる一層の金融緩和などが期待され、社債市場の下支えになると考えられます。

ここもチェック! 2020年2月14日 主要な資産の利回り比較（2020年1月）  
2020年2月 5日 吉川レポート：新型肺炎リスク vs. 流動性・低金利

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。